

2010年1月18日

第2863号

週刊(毎週月曜日発行)
1950年4月14日第三種郵便物認可
購読料1部100円(税込)1年5000円(送料、税込)
発行=株式会社医学書院
〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
TEL (03)3817-5694 FAX (03)3815-7850
E-mail: shinbun@igaku-shoin.co.jp
JCOPY (社)出版者著作権管理機構 委託出版物
E-mail: info@jcopy.or.jp

New Medical World Weekly

週刊 医学界新聞

医学書院 www.igaku-shoin.co.jp

今週の主な内容

- [新春対談]2010年宇宙医学の旅(栗原敏, 向井千秋)..... 1-3面
[連載]続・アメリカ医療の光と影/自信を持って子どもの病気に向き合える絵本..... 4面
2010年国際学会一覧..... 5面
MEDICAL LIBRARY, 「総合リハ」賞..... 6-7面

新春対談

2010年 宇宙医学の旅

国際宇宙ステーション 完成イメージ図 (提供: NASA/JAXA)

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」(←キーワード)が、設計着手から20年余りをかけて2009年7月に完成した。さらに本年後半には、「国際宇宙ステーション」が完成予定である。1961年にガガーリンが人類で初めて宇宙飛行を行ってからおよそ50年、本格的な宇宙環境利用の時代を迎え、新薬や医療機器の開発にも期待が集まる。本紙では、日本宇宙航空環境医学会理事長の栗原敏氏、医師であり日本人初の女性宇宙飛行士の向井千秋氏による新春対談を企画した。いざ、未知なる「2010年宇宙医学の旅」へ。

栗原 昨年は、若田光一宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに約4か月半にわたって長期滞在し、「きぼう」が完成しました。現在は野口聡一宇宙飛行士の長期滞在が行われており、いままさに、われわれに“希望”を与えてくれるプロジェクトが進行しています。そもそも国際宇宙ステーションにおいて、「きぼう」はどのような位置づけられるのでしょうか。

向井 国際宇宙ステーションはいわば“賃貸集合住宅”です。1人では買えないため皆でお金を出しあってつくったような施設で、拠出金によって利用

権が違ってきます。日本は米国に次ぐ利用権を持っており、また「きぼう」という独自の使える多目的施設を持ちました。今後はより頻りに、日本の宇宙飛行士が国際宇宙ステーションで活動できることとなります。

骨粗鬆症治療薬の予防的投与を宇宙で

栗原 JAXA(宇宙航空研究開発機構)は2007年4月に宇宙医学生物学研究室を創設し、同年の10月から向井先生が室長を務めておられます。この研

究室では、どのような取り組みをされているのでしょうか。

向井 宇宙長期滞在は微小重力と放射線、閉鎖環境という3つの要因があいまって、ヒトの人体に影響を与えます。宇宙医学生物学研究室は、そういった医学的リスクの軽減という観点から、①生理的対策、②精神心理支援、③宇宙放射線被曝管理、④遠隔医療システ

ム、⑤宇宙船内環境、と主に5つの研究分野に取り組んでいます。

栗原 その中で若田さんはどういった実験に取り組まれたのでしょうか。

向井 主に3つあります。1つ目は、遠隔医療システムの検証です。今回は、小型のホルター心電計で24時間心電

(2面につづく)

キーワード 国際宇宙ステーションと日本実験棟「きぼう」

国際宇宙ステーション(International Space Station:ISS)は、1998年から建設が進められている有人実験施設。84年に当時のレーガン米大統領によって提唱され、現在は米国のほか、ロシア、日本、カナダ、欧州ヨーロッパ宇宙機関加盟11か国が参加する国際協力プロジェクトとなっている。サッカー場ほどの大きさ(約100m四方)があり、「きぼう」を含む5つの実験モジュールと1つの居住モジュールで構成。高度400kmの地球低軌道を周回している。2000年から宇宙飛行士が数か月ずつ交代で暮らしており、未完成だった米国の実験棟も今年中に完成予定。「きぼう」は、国際宇宙ステーションに設置した日本初の有人宇宙施設として2009年7月に完成した。2つの実験スペース(船内実験室と船外実験プラットフォーム)、船内保管室、船外パレット、ロボットアーム、衛星間通信システムで構成されており、国際宇宙ステーションの中で最も大きい実験モジュール。微小重力環境を利用した科学実験以外にも、教育・芸術利用、有償利用(商業活動)など多目的用途に使えるように設計されているのが特徴だ。

なお、国際宇宙ステーションの運用には、生活物資や実験機器類、国際宇宙ステーションを維持する部品類などの物資の輸送が必要である。2009年9月には、日本初の無人補給機「HTV」(H-II Transfer Vehicle)が国際宇宙ステーションへのドッキングに成功。国際宇宙ステーションへの物資輸送の主力として国際的に期待されている。



向井 千秋氏

JAXA 宇宙医学生物学研究室室長/宇宙飛行士/医師

栗原 敏氏

日本宇宙航空環境医学会理事長/東京慈恵会医科大学学長・細胞生理学講座教授

January 2010

新刊のご案内

医学書院

●本紙で紹介の和書のご注文・お問い合わせは、お近くの医書専門店または医学書院販売部へ ☎03-3817-5657 ☎03-3817-5650(書店様担当) ●医学書院ホームページ(http://www.igaku-shoin.co.jp)もご覧ください。

今日の治療指針 2010年版

私はこう治療している
総編集 山口 徹、北原光夫、福井次夫
デスク判: B5 頁1,952 定価19,950円
[ISBN978-4-260-00900-3]
ポケット判: B6 頁1,952 定価15,750円
[ISBN978-4-260-00901-0]
臨床医が日常遭遇する治療法を、全診療科1,098項目にわたって網羅。各項目の執筆は第一線の専門医による。日本の保険診療に沿った現時点での最新・最高の治療法を解説した実用的な治療年鑑。薬物療法については随所に処方例として詳述(商品名を記載)。

運動負荷心電図

その方法と読み方(第2版)
川久保 清
B5 頁184 定価5,250円
[ISBN978-4-260-00873-0]

標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野全12巻)

老年学(第3版)
シリーズ監修 奈良 勲、鎌倉矩子
編集 大内剛義
B5 頁360 定価4,725円
[ISBN978-4-260-00850-1]

(シリーズ ケアをひらく)

リハビリの夜
熊谷晋一郎
A5 頁264 定価2,100円
[ISBN978-4-260-01004-7]

「多飲症・水中毒」ケアと治療の新機軸

編集 川上宏人、松浦好徳
B5 頁272 定価2,730円
[ISBN978-4-260-01002-3]

(レジデント向け好評既刊)

消化器外科レジデントマニュアル(第2版)
監修 小西文雄
編著 自治医科大学附属さいたま医療センター一般・消化器外科
B6変型 頁368 定価4,410円
[ISBN978-4-260-00851-8]

血液病レジデントマニュアル
神田善伸
B6変型 頁336 定価4,200円
[ISBN978-4-260-00837-2]

救急レジデントマニュアル(第4版)
編集 相川直樹、堀 進悟
B6変型 頁600 定価6,090円
[ISBN978-4-260-00800-6]

内科レジデントマニュアル(第7版)
編集 聖路加国際病院内科レジデント
B6変型 頁512 定価3,570円
[ISBN978-4-260-00812-9]

消化器内科レジデントマニュアル(第2版)
編集 東京大学消化器内科
B6変型 頁440 定価4,725円
[ISBN978-4-260-00594-4]

肝疾患レジデントマニュアル(第2版)
編集 柴田 実、八橋 弘、石川哲也
B6変型 頁456 定価4,725円
[ISBN978-4-260-00640-8]

レジデントのためのこれだけは知っておきたい! 消化器外科
編集 山本雅一
B5 頁152 定価3,780円
[ISBN978-4-260-00657-6]

臨床麻酔レジデントマニュアル
編集 古家 仁
編集協力 川口昌彦、井上聡己
B6変型 頁324 定価3,990円
[ISBN978-4-260-00617-0]

上記価格は、本体価格に税5%を加算した定価表示です。消費税変更の場合、税率の差額分変更になります。

# 新春対談 2010年 宇宙 医学の旅

(1面よりつづく)

図をとり、そのデータが軌道上から地球上に送られてくるシステムを構築しました。また、ハイビジョンカメラを使った宇宙飛行士の視診も行いました。宇宙飛行士が病気になっても地上から医師が駆けつけるわけにはいきません。日本の医療機器は小型で高性能ですから、軌道上健康管理技術の向上に役立つことが期待されています。

2つ目は、日本が開発した放射線被曝量測定器の検証です。これはいわゆるフィルムバッチみたいなもので、身体に着けて、どの程度の被曝量を調べることができます。

**栗原** 宇宙飛行士のフライト当たりの滞在日数や生涯搭乗日数は、被曝量で制限されるわけですね。

**向井** そうです。ですから、この測定器を適用すれば、より精度の高い計測が可能になることが期待されます。

3つ目は、骨粗鬆症治療薬のビスフォスフォネートを用いた研究です。これはNASA(米国航空宇宙局)との共同研究で、日本側の主任研究者は松本俊夫先生(徳島大)です。微小重力環境下では骨吸収が亢進し、地上の骨粗鬆症の約10倍の速さで骨量は減少します。ビスフォスフォネートを用いることによって、骨量減少・尿路結石のリスクを軽減することを目的としています。

**栗原** 骨量減少・筋萎縮といった生体変化は宇宙で活動する上で大きな課題ですね。以前、長期滞在した宇宙飛行士の中には、地球帰還後に長期間苦しんで、トレーニングしてもなかなか回復しないケースがあったと聞きます。ビスフォスフォネートの投与によって、骨量減少のリスクを軽減できるということですか。

**向井** そうなることを期待しています。若田さんが最初の被験者で、まだ一例なので成果の判断はできませんが、プレス・カンファレンスなどで本人も話しているとおりに運動や食事、そして薬剤等の医学支援が功を奏したよ

うで、宇宙飛行後も元気いっぱいでした。被験者の数を増やすことが次のステップとなります。

**栗原** 私も生理学の観点から骨格筋を研究しているので、大変に興味があるところです。これまでの常識ですと、負荷がかからないと骨格筋の維持は難しいとされていますが、薬剤だけで予防できるものなのでしょうか。

**向井** 負荷もやはり必要だと思います。長期滞在中の宇宙飛行士は、1日2時間程度の運動が義務付けられています。若田さんはトレッドミル、エルゴメーター、抵抗運動器の3つを組み合わせ、機械的な刺激によって筋骨の減少を防いでいました(左下写真)。しかし、毎日2時間頑張って運動したとしても、微小重力下での残りの22時間はまったく負荷のない状況になっているとも言えます。

**栗原** 重力があれば、脊柱起立筋など私たちが意識しない筋肉も常に働いています。微小重力だとそういう筋肉は働きませんからね。薬剤の予防的投与とは独立して、2時間の運動効果自体は認められるのですか。

**向井** 運動しないのはもちろん駄目ですが、2時間の運動で十分かどうかはまだ検証されていません。2時間で、地上の4時間に相当するような、より効果的な運動がないか、あるいは一度に2時間やるよりも朝昼晩と分散して運動したほうがいいのかなど、そういった研究はまだこれからです。

**栗原** 特殊な装置を使うなどして無理に負荷をかけないと、微小重力下での筋肉維持はなかなか難しいかもしれませんね。

**向井** そうですね。私たちは今後、地球上の環境も宇宙のシミュレーションとして有効活用しようとしていて、そのひとつが南極大陸を利用した国立極地研究所との共同研究です。南極は基地などで雪に閉じ込められるとなかなか運動ができない。そういった中で、電気刺激を用いた筋力トレーニングの研究がなされていて、効果が実証されれば、宇宙ステーションでの運動にも取り入れようと考えています。

## 重力が変われば 既成概念も変わる

**向井** 通常、「宇宙医学」と言われる

分野は、宇宙飛行士の健康管理を主な目的とした臨床的な研究を指します。しかし、ヒトに対しての医療を確実にするためには、生物全体のライフサイエンスを考えることが必要だと思っています。それで、研究室の名称も「宇宙医学生物学研究室」と、「生物」を入れているわけです。

先ほど挙げた研究はいずれもヒトが対象ですが、軌道上の微小重力環境を利用した動物実験にも取り組んでいます。「きぼう」の利用を3年ぐらいつつ3つの期間に分けて、公募制でさまざまな研究を行っています。さらに医師である古川聡宇宙飛行士が宇宙に長期滞在する2011年には、日本が開発している水棲生物実験装置が「きぼう」に加わることになり、メダカを飼育することが可能になります。実験環境も整いつつあるところです。

**栗原** そのほかにも、月面での有人活動に必要な医学を「月面開拓医学」と名付け、新たな研究領域に加えていると伺っています。具体的にはどのような研究テーマがあるのでしょうか。

**向井** 例えば、月面の表面を覆う鉱物性ダスト対策や放射線被曝の研究、あるいは月面での歩行や姿勢制御を研究する運動生理学です。

NASAによるアポロ計画(1961—75年)の月面着陸映像をみると、月面を歩いているというよりはびよびよん飛び跳ねている感じです。彼らは「月面では、片方の足を押しして次の足が下りてくるまで、もどかしくて待たられない」と言うわけです。1G(Gravity)の地球上における二足歩行では、重心を前に移動させ、その不安定性を使って足を出し移動します。しかし、これは仮説ですが、月面の6分の1Gの環境下ではそういった歩行のストラテジーが変わってくるかもしれません。

**栗原** 国際宇宙ステーションは微小重力、つまり0Gに近く、地球は1G、月面は6分の1Gです。そうやって重力を可変のパラメーターとして研究することができるのが面白いところです。

循環系を考えてみますと、1Gでは血液によって心臓も負荷を受けているわけですが、微小重力下で心筋がどのような影響を受けるのか興味のあるところです。そういった研究も行われているのですか。

**向井** 循環系では、体液調節、自律神経系、心機能などに注目しているいく



**●栗原敏氏**  
1971年慈恵医大卒。同大第二生理学教室を経て、英国 University College London 生理学教室、米国 Mayo Clinic 薬理学教室に留学。86年より慈恵医大第二生理学教室教授。2001年より同大学長、03年より学校法人慈恵大理事長も務める。日本生理学会常任幹事、日本病態生理学会理事、日本宇宙航空環境医学会理事長。専門は心筋および骨格筋の興奮収縮連関機構、特に細胞内Caイオンと収縮・弛緩の関係。編著書に『医療入門——よりよいコラボレーションのために』『学生のための生理学』(ともに医学書院)など。

つかの研究グループがあります。その中には、「宇宙では循環血液量が減少し心負荷が少なくなることで心筋が弱まり、心機能が低下する」と提唱しているグループもあります。

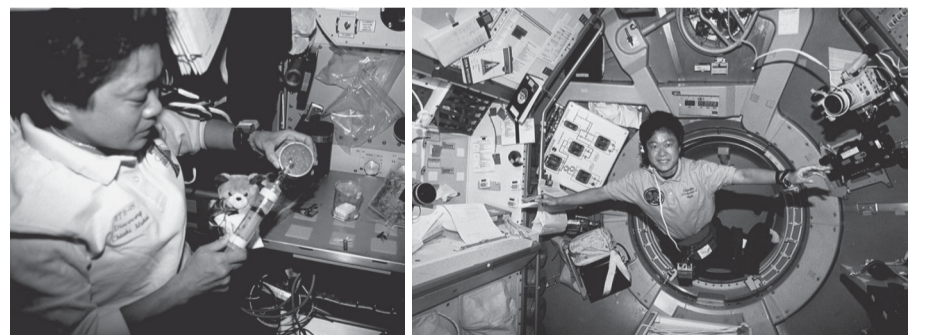
**栗原** 重力をパラメーターとして変化させることによって、ヒトの生理機能がわかってくるかもしれませんね。

**向井** それに、重力によって見過ごされてきた潜在的機能が見つかることも考えられます。

私は1998年の宇宙飛行の際、東北大学の高橋秀幸先生が提唱されたキュウリの種を使った実験を軌道上で行っています。キュウリの種は、種を包む袋から双葉が出るのですが、その際に peg と呼ばれる塊が袋の下側を押さえるような形で根と茎の間から突出してきて、双葉だけがきれいに伸びていける。この peg は、地球上の通常の状態では1個しかできません。しかし同じことを軌道上で行うと、2—3個できるのです。主任研究者の高橋先生によると、キュウリには本来そういうものを複数つくる機能があるけれど、1Gの地球上では押さえられている可能性があるというのです。



●宇宙飛行時の若田光一氏。改良型エクササイズ装置で運動を行う場面(左)とDome-Gene実験でクリーンベンチの作業を行う場面(右)。提供：NASA/JAXA



●宇宙飛行時の向井千秋氏。植物に水をあげる場面(左)とトンネルを通ってSLモジュールに入る場面(右)。提供：NASA/JAXA

腎臓病学の実践書、最新の知見を盛り込み全面改訂

## 専門医のための腎臓病学 第2版

腎臓病専門医や腎臓病専門医を目指す医師を対象とした実践書。改訂では情報をアップデートし最新の知見を盛り込んだ。〔症候編〕、〔新しい疾患概念〕、〔疾患編〕で構成。症候編では腎の構造と機能をベースにおいた診断の進め方を、新しい疾患概念では最近のあらたな疾患概念であるCKDやメタボリックシンドロームについて、疾患編では疾患の病態生理・診断・治療をまとめた。あえて〔基礎編〕は作らず、項目ごとに必要事項を織り込んで解説した臨床志向の1冊。

**監修** 下条文武  
新潟大学学長

**編集** 内山 聖  
新潟大学大学院教授・小児科学

富野康己  
順天堂大学教授・腎臓内科

今井裕一  
愛知医科大学教授・腎臓・リウマチ膠原病内科

腎臓病学の最新の知見を盛り込み全面改訂

B5 頁640 2009年 定価15,750円(本体15,000円+税5%) [ISBN978-4-260-00861-7]

医学書院

新ガイドラインに準拠した、コンパクトで具体的な運動負荷心電図検査の手引き

## 運動負荷心電図 第2版

その方法と読み方

運動負荷心電図検査は、簡便な方法にもかかわらず、得られる生理的な情報は多い。本書は、具体的な検査方法(心電図の取り方)と、症状・疾患の心電図診断(評価)をプラクティカル、かつコンパクトにまとめている。ACC/AHA、日本循環器学会の新しいガイドラインに準拠。循環器内科医はもちろん、健診、心臓リハビリテーションに関わるコメディカルスタッフにも最適な1冊。

**川久保 清**  
共立女子大学教授

運動負荷心電図  
その方法と読み方 第2版

検査の方法と診断の実際

B5 頁184 2010年 定価5,250円(本体5,000円+税5%) [ISBN978-4-260-00873-0]

医学書院



●向井千秋氏

1977年慶大医学部卒。77—85同大外科学教室医局員として心臓血管外科の臨床および研究に従事。2年弱におよぶ採用試験の結果、85年に宇宙開発事業団(現在の宇宙航空研究開発機構)より宇宙飛行士に選定される。94年、98年と2度の宇宙飛行を行い、微小重力環境下での生命科学および宇宙医学分野の実験を実施。2004年より07年9月まで、国際宇宙大学の客員教授として国際宇宙ステーションでの宇宙医学研究ならびに健康管理への貢献をめざした教育を行う。2007年10日より現職。若手研究者の育成が今後の目標。

宇宙ステーションから月面滞在、そして遙か彼方の火星へ

栗原 将来展望として、月に人が住むところまで視野に入っているのでしょうか。放射線被曝など克服すべき課題が多く、かなり長期的展望が必要ではないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

向井 宇宙ステーションについては、「Living and working in space」と皆が言うように、実際に宇宙に住んでそこで仕事をする時代は既に実現しています。

月面については、日本は月周回衛星「かぐや」による多くの研究成果がありますが、有人探査に関しては残念ながら足踏みしている段階です。一方、米国は2020年以降の有人滞在ミッションを計画しています。国際的な動きから見ると、米国、ロシア、欧州は火星に行くことを1つのターゲットに、月面を開拓しようとしています。

栗原 地球と火星の中間に、月面は位置付けられるのですか。

向井 ただ、月面と火星はまったく違います。月面は片道3日程度ですからまだ地球の延長線上で、地球から物を

運んで生活できます。遠隔医療にしても、こちら側からコマンドを打つとそれほど遅れなく届きますし、もし本格的な治療が必要なら地球に戻ればいい。旅行者が押し寄せるような状況にでもならない限り、月面に本格的な病院をつくる必要はないでしょう。

しかし火星の場合は、飛び立ってから帰還まで2年半の長旅になります。遠隔医療に関しては月面とはまったく違って、自立型を考えないとはいけません。閉鎖空間で宇宙放射線を浴び続けることになるので、精神面や医学面で解決すべき問題が多々あります。ロシアは地球上に閉鎖空間施設を設けていて、「Mars 500」という、将来の火星有人探査のために閉鎖環境で6人が500日間暮らす実験が始まっています。月と環境の違う火星を研究することによって、また別の視点で地上の生活に役立つ知見が得られると思います。

栗原 われわれは地球環境に適応しているわけですが、宇宙という環境ではそれが揺さぶられる。そのときのいろいろな反応から人間の生理的な調節機能を考え、それが医学に還元できるのではないかと感じています。そこに宇宙医学の醍醐味がありますね。

向井 その通りなのです。宇宙医学生物学研究室の理念は、ロゴマーク(下図)に表現されています。国際宇宙ステーションを研究の足場としつつ、月や火星を視野に入れて、宇宙医学のフロンティアを開拓する。その研究成果を、地球上の人々が享受できるような学問に、宇宙医学を発展させていきたいと思っています。



宇宙医学生物学研究室のロゴマーク

「地上に役立つ宇宙医学」研究の発展に向けて

栗原 宇宙は特殊な環境という感覚がまだまだ強いと思いますが、先生のお話を伺っていると非常に身近なところにある気がします。

向井 実は私たちが住んでいる地球も宇宙の一部であり、宇宙の中で地球は特殊環境なのです。私が宇宙飛行から帰ってきて面白かったのは、地球上の重力に人間はすごく縛られていて、この環境のほうが特殊なのだと感じたこ



●国際宇宙ステーションに取り付けられた「きぼう」船内実験室(下)、ロボットアーム(左)と移設後の船内保管室(中央)。提供: NASA/JAXA

とです。そういったことを考えていくと、宇宙医学は非常に面白い分野として開けてくるのではないかと思います。栗原 これまでは、宇宙実験施設の設計やシャトル打ち上げなど理学・工学分野が中心でした。今後は宇宙医学が発展し、その研究成果が地球上に還元され、医学・医療の発展にも大変大きな貢献をすることが期待されます。例えば、本格的な宇宙実験時代となると、今後は創薬にもつながっていくのだろうと思うのです。

向井 そうですね。「国際宇宙ステーション」と呼ばれるくらいで、いろいろな実験が国際協力の下に行われています。日本は残念ながら人員不足で、薬学の基礎研究までテーマに入れていませんが、NASAには薬学博士がいて、吸収や代謝などの研究をしています。

栗原 研究の公募はありますか。向井 これからは1年から1年半に1回ぐらい、国際公募があります。現在も国際公募のとりまとめ中で、欧州科学財団(European Science Foundation)でピア・レビューを行い、JAXAとしても日本の研究者からの応募をサポートする体制を構築しつつあります。

栗原 日本宇宙航空環境医学会でも、若い研究者を応援して、JAXAのさまざまなプロジェクトに協力していきたいと考えています。

向井 ぜひ学会とJAXAの連携を強化したいです。若い人には「宇宙飛行士を支える宇宙医学」だけでなく、「地上に役立つ宇宙医学」があることを知ってもらいたい。そうすれば、もっと研究の分野が広がると思うのです。

栗原 骨や筋肉など、宇宙で起きてくる問題は老化現象に非常に似ています

ね。これから高齢社会になるとさらに切実な問題です。このような問題に関して宇宙医学の成果が還元されることを期待したいと思います。

向井 宇宙医学生物学研究室では、「プロジェクト研究員」という約3年間の任期付きのポストを毎年採用しています。リハビリテーションやスキンケア、口内衛生などさまざまな研究課題がありますから、若手の研究者の皆さんにこの制度を大いに利用していただき、多職種による学際的な研究を進めていきたいと思っています。

栗原 それは素晴らしいですね。日本宇宙航空環境医学会では「若手の会」ができました。今後は学会としても若手研究者の育成を支援していきたいと考えています。

向井 将来的には日本宇宙航空環境医学会とJAXAが中心になって、若手研究者がローテートできるシステムをつくれるといいと思うのです。例えばJAXAで3年間ポストを経た後は大学に戻る、その後またJAXAや他の研究施設での仕事にかかわる、といったふうに継続して研究を続けていける環境ですね。あるいは、研究のみでなく航空宇宙産業での臨床をローテートするのも有益だと思います。航空会社でパイロットの健康管理を、JAXAで宇宙飛行士の健康管理をそれぞれ3か月間ぐらい勉強して、お互いの観点を学ぶのもいいかもしれません。

栗原 そうやってコラボレーションできるといいですね。その中でやはり、向井先生は絶大な人気がありますから、宇宙医学のめざすところを、大いに啓蒙していただきたいと期待しています。(了)

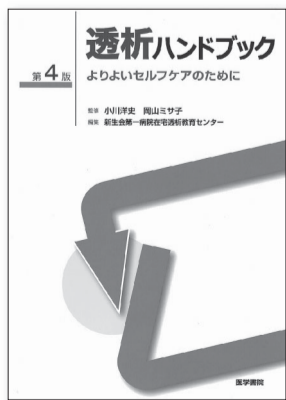
慢性腎不全医療の新しい知識を盛りこんで全面改訂!

透析ハンドブック

よりよいセルフケアのために 第4版

監修=小川洋史・岡山ミサ子

編集=新生会第一病院在宅透析教育センター



腎臓病の専門病院として全国に知られた新生会第一病院スタッフが総力をあげて作り上げた透析の解説書。慢性腎不全医療の新しい知識を盛り込み9年ぶりに全面改訂。平易な解説と親しみやすいイラストで透析医療にかかわる医療スタッフだけでなく、患者自身が理解してセルフケアにつなぐ視点でまとめられている。

●B5 頁240 2009年 定価2,940円 (本体2,800円+税5%) [ISBN978-4-260-00894-5]

医学書院

わかる! 画像診断の要点シリーズ

重要症例を網羅し、診断と鑑別のポイントを明示した実地ガイドの新シリーズ!

- 領域別に、画像診断の要点を手早く確実に確認および学習できる、日常診療に直結した実地ガイド。
●各巻とも最も重要な症例と知識を厳選、適度なボリュームで高密度な内容に仕上げた。
●各症例は2~3頁に簡潔にまとめられ、最新の装置で得られた典型的かつ鮮明な画像を収載、類書を凌ぐクオリティを有する。
●解説は簡潔書き形式で、各項目を「概要」、「画像所見」、「臨床事項」、「鑑別診断」、「読影のポイントとピットフォール」の見出しのもとに、見やすく整理して提示。
●放射線科および当該領域各科若手医師の日常診療の伴侶として、あるいは専門医試験準備のための書として、幅広い用途に応じるハンドブック。

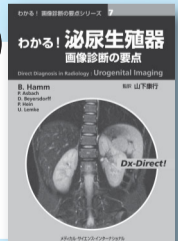
7 わかる! 泌尿生殖器 画像診断の要点

Direct Diagnosis in Radiology: Urogenital Imaging

監訳 山下康行

熊本大学大学院医学薬学学術部放射線診断学教授

●B5変 頁296 写真217 2009年
●定価5,880円(本体5,600円+税5%)
●ISBN978-4-89592-623-2



好評発売中

- 1 わかる! 脳 画像診断の要点 監訳 百島祐貴 定価5,880円(本体5,600円+税5%)
2 わかる! 脊椎 画像診断の要点 監訳 菅信一 定価5,880円(本体5,600円+税5%)
3 わかる! 頭頸部 画像診断の要点 監訳 尾尻博也 定価5,880円(本体5,600円+税5%)
4 わかる! 心臓 画像診断の要点 監訳 似島俊明 定価6,090円(本体5,800円+税5%)
5 わかる! 消化器 画像診断の要点 監訳 大友邦 定価5,880円(本体5,600円+税5%)
6 わかる! 乳腺 画像診断の要点 監訳 角田博子・東野英利子 定価5,880円(本体5,600円+税5%)
7 わかる! 骨軟部 画像診断の要点 監訳 杉本英治 定価6,300円(本体6,000円+税5%)

シリーズ続刊 「小児」「血管」ほかを 順次刊行予定

続 アメロカ医療の 光と影

第166回

米国肝移植ルールの公正さをめぐって⑥ ジョブズが使った裏技

李 啓亮 医師/作家(在ボストン)

前回までのあらすじ：マントルの肝移植後、米国では肝移植ルールの見直しが行われた。

マントルの肝移植がきっかけとなってレシピエントの優先順位を決めるための新システム MELD (Model for End-Stage Liver Disease) が施行されるようになったことは、前回も述べたとおりである。

しかし、MELD が導入された2002年以降、米国において肝移植をめぐるトラブルが皆無になったかというところなことはなく、その後も、肝移植の公正さが疑われる事件が相次いだ。

新ルール導入後も続く「特別扱い」疑惑

例えば、2003年9月、ロサンゼルスセント・ビンセント・メディカル・センターで、本来移植が行われるべき患者にではなく、待機順位52位と、はるかに下位の患者に移植が行われ問題となった。しかも、移植後、書類をねつ造、あたかも優先順位1位の患者に移植が行われたように装ったから悪質だった。

さらに、日本でも報道されたことと思うが、山口組系暴力団後藤組組長・後藤忠正ら暴力団関係者4人がUCLAで肝移植を受けていた事実が2008年に明るみに出、問題となった。

4人に移植が行われたのは、MELD導入前後にまたがる2001-04年の4年間。いずれも比較的短い待機期間の後に移植を受けることができたのだ

が、通常、ロサンゼルス地区では、3年以内の待機期間で移植を受けられる患者は34%に過ぎない上、移植を受けられずに亡くなる患者も毎年100人を超すとされている。しかも、後藤組長など2人が移植直後UCLA外科部門に各10万ドルを寄付、「金で肝臓を買った」とする批判が噴出した(註)。

ちなみに、『ジョンQ』は、デンゼル・ワシントン演じる父親が子どもに心臓移植を受けさせるために悪戦苦闘する様を描いた映画であるが、医師・病院が、「親に支払い能力がない」ことを理由に子どもを待機リストに載せるのを拒否することがストーリーの要となっている。実は、「支払い不能」を理由に待機リストに載せない行為は決して「絵空事」などではなく、現行ルール下ではまったく「合法」の行為とされている。日本の暴力団関係者が「金で肝臓を買った」かどうかの真偽はともかくとして、「金で臓器を買う」対極には、「お金がないと待機リストにも載せてもらえない」という悲惨な状況があるのである。

さらに、暴力団関係者の肝移植をめぐるのは、移植を実施したUCLA外科部長の役割も注目された。手術後日本に何度か「往診」しただけでなく、後藤組長が収監された際にも診察、「拘

置生活に耐えられない」と、医学的理由から保釈を求める診断書を裁判所に提出したのである。後藤組長を「特別扱い」したとする批判に対し、外科部長は「私は患者を犯罪歴で差別するようなことはしない」と弁明した。

ところで、米国政府は、原則として日本の暴力団関係者の入国を認めていない。ではなぜ後藤組長が入国できたのかというと、それは、FBIと情報提供について「取引」したからだといわれている。

後藤組長が肝移植を受けた後、稲川会・稲川裕紘会長がやはりUCLAでの肝移植を希望した。ロサンゼルスタイムズ紙によると、稲川会長もFBIに情報提供を申し出たのだが、ビザは発給されなかった。後藤組長がFBIとの約束を反故にし、情報提供をしなかったことがたまたまからだと言われている(稲川会長はその後オーストラリアで肝移植を受け、2005年に日本で死亡)。

日本の暴力団関係者に肝移植を実施したことについて、UCLAは「何もルール違反はしていない」と開き直った。しかし、「移植はドナーの善意で成り立っている。ドナー・カードに署名した人が快く思うはずがない」と批判されたのは言うまでもない。

「宝くじ」を当てるには

と、肝移植をめぐる「特別扱い」疑惑はMELD導入後も続いているのだが、本シリーズ冒頭で紹介したアップルCEOスティーブ・ジョブズの場合も、はたして特別扱いを受けたのだろうか？

結論から先に言うと、特別扱いもな

ければ、ルール違反も一切なかったのだが、ジョブズは、移植を早く受けるための「裏技」を使っていたので説明しよう。

注意深い読者は、ジョブズが移植を受けたのが、居住地のカリフォルニアではなくテネシー州であったことにお気づきになられたのではないだろうか。テネシー州は移植待ちの患者が少ないことで知られている上、米国の移植ルールは、患者が複数の地域で待機リストに名を載せることを禁止していないのである。

というのも、たとえ複数の地域で登録したとしても、遠隔地でドナーが現れた場合、居住地から手術先の病院まで移植が可能な時間内に移動することは、通常、まず不可能だからである。しかし、ジョブズのように自家用ジェットを所有するような大金持ちの場合、全米のどこでドナーが現れようとも、数時間で手術地に移動することは容易である。彼らにとって、複数地域での登録は「宝くじに当たる確率を大幅に高める」手っ取り早い手段に過ぎないのである。

後藤組長は「肝臓を金で買った」と批判されていると上述したが、ジョブズの場合、肝臓を直接金で買ったわけではないにしても、複数地域での登録という「裏技」が使えたという意味で、財力に物を言わせて移植を受けた事実には変わりはないのである。

(この項おわり)

註：米国の保険に入っていない「無保険患者」に対する手術は割引なしの「定価での販売」なので、UCLA・執刀医にとっては診療報酬面からも大幅な収入増になったと言われている。

自信を持って子どもの病気に向き合える絵本

子どもの急な発熱やけがに対する親の不安が医療機関の“コンビニ受診”を生んでいるといわれる。そのようななか、小児科医を疲弊させないように、親が病気についての基本的な知識を身に付け、医療者と上手に付き合っていくための活動が注目を集めている。小児医療の現状を改善しようと活動続ける『「知ろう！小児医療 守ろう！子ども達」の会』もその一つだ。

昨年11月には、米国の小児科医であり、「ヒッポ先生シリーズ」という絵本の著者でもあるシャーロット・コーワン氏が来日。『「知ろう！小児医療 守ろう！子ども達」の会』の会員らとの懇親会の機会が設けられた。

「ヒッポ先生シリーズ」とは、病気の子どものための絵本で、全5冊からなる。熱、中耳炎、のどの痛み、風邪、吐き気と下痢、という子どもに比較的よく起こりやすい症状を取り上げている。昨年9月には、医療教育活動への貢献に対してオバマ大統領から“社会を改革するリーダー”として表彰を受けたという。

「ヒッポ先生シリーズ」は、日本では『おねつをだしたピーパー』『かぜをひいたケイティ』の2冊が邦訳され、出版されている。訳者である西村秀一氏(国立病院機構仙台医療センター)は、米国の学会誌の書評欄で『おねつをだしたピーパー』が紹介されているのを見て、本シリーズの重要性を感じ、翻訳刊行を企画したという。

同書の特長は、子どもが絵本として楽しむだけでなく、「子どもの発熱について(Q&A)」というページを設け、親へのアドバイスを掲載している点にある。「どうすれば、子どもが熱を出していることを見つけられるか」「医師に連絡する必要があるのはどのようなときか」など、親の不安に応えるための項目が並ぶ。米国と日本における治療法、医療制度などの違いについては、日本の実情にあった形に改められている。

懇談会のなかでコーワン氏は、患者が自分の症状について、医療者に正確に伝

えるための知識が必要だと指摘。例えば医療者に対し、「抗菌薬をください」と依頼すること、「この症状には抗菌薬が必要ですか」と質問できることでは大きな差があると述べた。そのためには、なぜこの薬を使うのか、あるいは使わないのかという知識を、医療者が受診の機会に丁寧に説明し、親が処置の仕方を知って自信を持って子どもの病気に向き合える素地をつくる必要があると強調した。



●コーワン氏

おねつをだしたピーパー 『おねつをだしたピーパー』シャーロット・コーワン文 スーザン・バンタ絵 西村秀一訳 定価：2,100円(税込) サイエントリスト社 TEL.03-3470-9979

病院 2010 Vol.69 No.2

特集 病院管理会計とBSCの効用

病院における管理会計と期待される役割 池上直己 「医療機関の部門別収支に関する調査」の開発とその適用 医療経済研究機構 医療におけるBSC利用の現状と課題 渡辺明良 BSC導入が病院にもたらしたものと財務の視点を中心に 須藤秀一 【座談会】今後の病院経営における原価管理をどうするか 相田俊夫・石井孝宜・塩崎英司・秦温信・大道久 診療科単位(外科)でのBSC導入の意義 田中信孝 カナダ・オンタリオ州での医療BSCの現状と医療政策における利用 高橋淑郎 従業員満足度とBSC 齋藤哲哉 ●A4変型判 月刊 2,940円(本体2,800円+税5%) ●2010年年間予約購読料 34,200円(税込) 電子ジャーナル閲覧オプション付 44,500円(税込) 配達料弊社負担

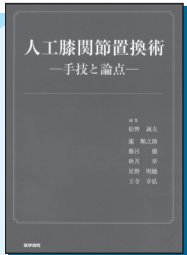
医学書院

“難しい”といわれる人工膝関節置換術を、最前線で活躍する術者がわかりやすく解説

人工膝関節置換術 手技と論点

人工膝関節置換術をめぐるのは、その手術法や使用するインプラントのデザイン、周術期の管理、最小侵襲手術(MIS)の是非など、いくつかの論点が存在する。これらの論点を軸としながら、一般的に手技が“難しい”といわれている膝の人工関節置換術の方法やコツ、ピットフォールなどを最前線の現場で活躍する術者がわかりやすく解説する、実践的な手術書。

編集 松野誠夫 北海道大学名誉教授・奥羽労災病院名誉院長・北海道整形外科記念病院理事長 龍順之助 日本大学医学部総合科学研究所教授・整形外科 勝呂徹 東邦大学教授・整形外科 秋月章 長野松代総合病院・院長 星野明穂 川口工業総合病院・院長 王寺孝弘 福岡整形外科病院・院長



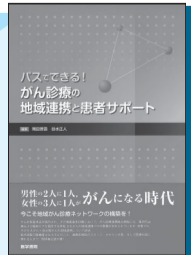
医学書院

今こそ地域がん診療ネットワークの構築を!

パスでできる! がん診療の地域連携と患者サポート

がん対策基本法が施行され、その推進基本計画において、がん診療連携拠点病院には、集学的治療および緩和ケアを提供する体制、5大がんの地域連携パスの整備が求められている。本書では、その5大がん(前立腺がんの地域連携)について詳述し、緩和医療、ホスピスとの連携、さらには退院調整、患者中心のネットワーク作りまでをわかりやすく解説。拠点病院の医療者はもちろんのこと、連携先病院のスタッフ、かかりつけ医、そして医療行政に携わる人まで、関係者必読の書!

編集 岡田晋吾 北美原クリニック・理事長 谷水正人 四国がんセンター・統括診療部長



医学書院

# 医学関連国際学会情報

## 2010年 (国内開催予定)

### 1月

- \* **バイオイメージング国際会議**  
1月18—20日, 鈴木和男 (感染研), 岡崎市・岡崎コンファレンスセンター  
〔連絡先〕日本バイオイメージング学会  
URL = <http://www.nih.go.jp/niid/bioimaging/isfb.pdf>
- \* **CCT 2010**  
1月28—30日, 日野原知明 (米国セコイア病院), 神戸市・神戸国際展示場  
〔連絡先〕CCT事務局  
☎(0532)57-1275/FAX(0532)52-2883  
URL = <http://cct.gr.jp/2010/>

### 3月

- \* **International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society (同時開催：日本神経外傷学会)**  
3月6—7日, 重森稔 (久留米大教授), 東京・東京ステーションコンファレンス  
〔連絡先〕久留米大学病院脳神経外科  
☎(0942)31-7570/FAX(0942)38-8179  
URL = <http://aons2010.umin.ne.jp/>
- \* **アジア先天代謝異常学会**  
3月7—10日, 遠藤文夫 (熊本大教授), 福岡市・福岡国際会議場  
〔連絡先〕熊本大学医学部附属病院小児科  
☎(096)373-5191/FAX(096)360-3471  
URL = <http://square.umin.ac.jp/JSIMD/>
- \* **アジア慢性期医療学会**  
3月13—14日, 中村哲也 (板橋中央総合病院理事長), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕日本コンベンションサービス(株)  
☎(03)3508-1214/FAX(03)3508-1302  
URL = <http://www2.convention.co.jp/amcf2010/>
- \* **国際消化器内視鏡セミナー (The Yokohama Live 2010)**  
3月13—14日, 工藤進英 (昭和大横浜市北部病院消化器センター教授), 横浜市・新横浜プリンスホテル  
〔連絡先〕昭和大横浜市北部病院消化器センター  
☎(045)949-7265/FAX(045)949-7263  
URL = <http://www.yokohama-live.com/>
- \* **日韓国際微生物学シンポジウム (日本細菌学会会期中開催)**  
3月26日, 神谷茂 (杏林大教授), 横浜市・パシフィック横浜  
〔連絡先〕(株)イー・イー企画大阪オフィス  
☎(06)6350-7162/FAX(06)6350-7164  
URL = [http://www.aeplan.co.jp/jsb83j-k\\_is\\_m.html](http://www.aeplan.co.jp/jsb83j-k_is_m.html)
- \* **国際内分泌学会議**  
3月26—30日, 中尾一和 (京大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕(株)コングレ  
☎(06)6229-2555/FAX(06)6229-2556  
URL = <http://www.congre.co.jp/ice2010/index.html>
- \* **International Symposium on Pediatric Endocrinology**  
3月31日—4月1日, 藤枝憲二 (旭川大教授), 東京・東京砂防会館  
〔連絡先〕(株)コングレ  
☎(03)5216-5318/FAX(03)5216-5552  
URL = <http://www.congre.co.jp/ispe2010/index.html>
- \* **国際心血管代謝内分分泌学会**  
3月31日—4月1日, 斎藤藤彦 (奈良大教授), 奈良市・奈良県新公会堂  
〔連絡先〕奈良県立医科大学第1内科学教室  
☎(0744)22-3051/FAX(0744)22-9726  
URL = <http://www.bit-image.com/2010cvem/index.html>

### 4月

- \* **国際職業環境アレルギー免疫毒性シンポジウム 2010**  
4月7—9日, 大槻剛巳 (川崎大教授), 京都市・京大会館  
〔連絡先〕川崎医科大学衛生学教室  
☎(086)462-1111/FAX(086)464-1125  
URL = [http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/iso\\_aied10/](http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/iso_aied10/)
- \* **国際リウマチシンポジウム (日本リウマチ学会会期中開催)**  
4月22—25日, 塩澤俊一 (神戸大教授), 神戸市・ポートピアホテル  
〔連絡先〕神戸大学大学院医学研究科内科学講座

☎(078)382-5680

URL = <http://www.jcr2010.jp/>

### 5月

- \* **国際心臓研究学会世界大会**  
5月13—16日, 堀正二 (阪大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学  
☎(06)6875-5623/FAX(06)6879-3639  
URL = <http://www.ishr2010.com/>
- \* **太平洋小児外科学会**  
5月23—27日, 岩井直躬 (京府医大教授), 神戸市・ポートピアホテル  
〔連絡先〕京都府立医科大学小児外科学  
☎(075)251-5809/FAX(075)251-5828  
URL = <http://www.paps2010.org/index.html>
- \* **アジア・オセアニア放射線防護学会**  
5月24—28日, 小佐古敏荘 (東大教授), 東京・タワーホール船堀  
〔連絡先〕(株)国際広報企画  
☎(03)5405-1844/FAX(03)5405-1846  
URL = <http://www.aocrp-3.org/>
- \* **国際歯科学士会日本部会 2010年度総会**  
5月29日, 齋藤毅 (国際歯科学士会会長), 大阪市・リーガロイヤルホテル大阪  
〔連絡先〕国際歯科学士会日本部会  
☎(03)3952-5155/FAX(03)5982-7751  
URL = <http://www.icd-japan.gr.jp>

### 6月

- \* **アジア・オーストラレーシア麻酔科学会**  
6月1—5日, 澄川耕二 (長崎大教授), 福岡市・福岡国際会議場  
〔連絡先〕日本麻酔科学会  
☎(050)8883-7008/FAX(078)306-5946  
URL = <http://www.aaca2010.jp/>
- \* **日中韓産業保健学術集談会**  
6月10—12日, 武藤孝司 (獨協医大教授), 宇都宮市・栃木県総合文化センター  
〔連絡先〕産業医科大学産業生態科学研究所 作業病態学研究室  
☎(093)691-7470/FAX(093)601-2667  
URL = <http://wshiiivx.med.uoeh-u.ac.jp/kjc/index.html>
- \* **国際外科学会日本部会**  
6月12日, 青木達哉 (東医大教授), 東京・東京医科大学病院  
〔連絡先〕国際外科学会日本部会  
☎(03)3353-1424/FAX(03)3358-1424  
URL = <http://www.ics-japan.org/>
- \* **2010国際ポリアミン会議**  
6月14—18日, 松藤千弥 (慈恵医大教授), 御殿場市・御殿場高原ホテルB.U.  
〔連絡先〕東京慈恵会医科大学分子生物学講座  
☎(03)3433-1111 (内線2276)/FAX(03)3436-3897  
URL = <http://pa.umin.jp/2010IPC.html>
- \* **国際NO学会 (合同開催：日本NO学会)**  
6月14—18日, 赤池孝章 (熊本大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕(株)コンベンションリネージュ  
☎(06)6377-2188/FAX(06)6377-2075  
URL = <http://www.secretariat.ne.jp/no2010/>
- \* **国際精子学シンポジウム**  
6月24—29日, 森澤正昭 (東京家政学院大教授), 宜野湾市・沖縄コンベンションセンター  
〔連絡先〕東京大学大学院理学系研究科附属三崎崎海実験所  
☎(046)827-6543/FAX(046)881-7944  
URL = <http://www2.mmb.s.u-tokyo.ac.jp/spermatology2010/>
- \* **札幌がんセミナー国際がんシンポジウム**  
6月28—29日, 吉森保 (阪大教授), 札幌市・北海道大学学術交流会館  
〔連絡先〕大阪大学微生物病研究所環境応答研究部門細胞制御分野  
☎(06)6879-8294/FAX(06)6879-8295  
URL = <http://www.phoenix-c.or.jp/scs-hk/>

### 7月

- \* **国際喘息学会日本北アジア部会**  
7月2—3日, 秋山一男 (相模原病院院長), 東京・京王プラザホテル  
〔連絡先〕相模原病院臨床研究センター  
☎(042)742-9721/FAX(042)742-7990  
URL = <http://www.hosp.go.jp/~sagami/rink/en/crc/dl/090714.pdf>
- \* **アジア・オセアニア整形外科スポーツ医学会 (同時開催：日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会)**  
7月2—4日, 井植栄二 (東北大教授), 宜野湾市・沖縄コンベンションセンター

- 〔連絡先〕東北大学医学部整形外科学教室  
☎(022)717-7245/FAX(022)717-7248  
URL = <http://www.congre.co.jp/joskas2010/e/index.html>
- \* **アジア太平洋小児循環器学会**  
7月6—8日, 中澤誠 (脳神経疾患研究所附属総合南東北病院), 浦安市・シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル  
〔連絡先〕千葉県循環器病センター  
☎(0436)88-3111/FAX(0436)88-3032  
URL = <http://www.apcs.org/2010/comitees.htm>
- \* **アジア太平洋成人先天性心疾患学会**  
7月7—8日, 丹羽公一郎 (千葉県循環器病センター部長), 浦安市・シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル  
〔連絡先〕千葉県循環器病センター  
☎(0436)88-3111/FAX(0436)88-3032  
URL = <http://jsachd.org/apsachd/>
- \* **国際扁桃・粘膜免疫シンポジウム**  
7月7—9日, 原瀬保明 (旭川医大教授), 旭川市・旭川グランドホテル  
〔連絡先〕(株)ワールドミーティング  
☎(03)3350-0363/FAX(03)3341-1830  
URL = <http://www.world-meeting.co.jp/istmb7/>
- \* **国際膵臓学会 (合同開催：日本膵臓学会大会)**  
7月11—13日, 田中雅夫 (九大教授), 中尾昭公 (名大教授), 福岡市・福岡国際会議場  
〔連絡先〕(株)コングレ  
☎(092)716-7116/FAX(092)716-7143  
URL = <http://www.congre.co.jp/iap-jps2010/>
- \* **East Asia C. elegans Meeting**  
7月11—14日, 黒柳秀人 (東医歯大准教授), 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
〔連絡先〕虫の集い (線虫 C. elegans 研究者コミュニティ)  
☎(03)5841-4753/FAX(03)5841-4751  
URL = <http://www.wormjp.umin.jp/2010EAWM/Home.html>
- \* **日本血液学会国際シンポジウム**  
7月16—17日, 澤田賢一 (秋田大教授), 秋田市・秋田大学  
〔連絡先〕日本血液学会  
☎(075)752-2844/FAX(075)752-2842  
URL = <http://www.jshem.or.jp>
- \* **国際統合医学学会**  
7月17—18日, 水上治 (健康増進クリニック院長), 東京・東京コンファレンスセンター・品川  
〔連絡先〕国際統合医学学会  
☎(03)3222-0369/FAX(03)3222-0073  
URL = <http://www.is-im.org/>

### 8月

- \* **国際獣疫免疫学シンポジウム**  
8月16—20日, 小野寺節 (東大教授), 東京・タワーホール船堀  
〔連絡先〕東京大学大学院農学生命科学研究科応用免疫学教室  
☎(03)3812-2111  
URL = <http://9th-ivis.jtbc.com.co.jp/>
- \* **国際免疫学会議 (共同主催：日本臨床免疫学会)**  
8月22—27日, 岸本忠三 (阪大名譽教授), 神戸市・ポートピアホテル  
〔連絡先〕大阪大学大学院医学系研究科C8感染免疫学講座・免疫動態学  
☎(06)6879-3971/FAX(06)6879-3979  
URL = <http://www.ici2010.org/jp/index.html>
- \* **ISIR-Osaka2010/日本生殖免疫学会**  
8月28—29日, 岡部勝 (阪大教授), 吹田市・大阪大学医学部銀杏会館  
〔連絡先〕大阪大学微生物病研究所  
☎(06)6879-8374/FAX(06)6879-8376  
URL = <http://kumikae01.gen-info.osaka-u.ac.jp/ISIR/home.htm>
- \* **国際中皮腫学会**  
8月31日—9月3日, 中野孝司 (兵庫医大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕(株)コングレ  
☎(06)6229-2555/FAX(06)6229-2556  
URL = <http://www.congre.co.jp/imig2010/index.html>

### 9月

- \* **アジアハイパーサーミア腫瘍学会 (合同開催：日本ハイパーサーミア学会)**  
9月10—11日, 前原喜彦 (九大教授),

- 福岡市・九州大学医学部百年講堂  
〔連絡先〕日本ハイパーサーミア学会  
☎(0744)43-2927/FAX(0744)43-2927  
URL = <http://www.jsho.jp/>
- \* **国際小児外科リサーチシンポジウム**  
9月12—14日, 山高篤行 (順大教授), 東京・東京ガーデンバレス  
〔連絡先〕順天堂大学大学院医学研究科小児外科・小児泌尿生殖器外科学  
☎(03)3813-3111  
URL = <http://www.waaint.co.jp/ispsr23/index.html>

### 10月

- \* **東アジア皮膚科会議**  
9月30日—10月1日, 古江増隆 (九大教授), 福岡市・ホテルニューオータニ博多  
〔連絡先〕(株)コングレ  
☎(092)716-7116/FAX(092)716-7143  
URL = <http://www.eadc2010.com>
- \* **国際整形外科基礎学術集会**  
10月16—20日, 清水克時 (岐阜大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕(株)オフィステイクワン  
☎(052)930-6145/FAX(052)930-6146  
URL = <http://www.cs-oto.com/cors2010/>
- \* **アジア太平洋渡航医学会議 (合同開催：日本渡航医学会学術集会)**  
10月20—23日, 西山利正 (関西医大教授), 奈良市・奈良県新公会堂  
〔連絡先〕(株)ジェイコム 国際営業部  
☎(06)6348-1371/FAX(06)6348-1375  
URL = <http://aphc2010.jtbc.com.co.jp/>
- \* **国際臨床神経生理学学会**  
10月28日—11月1日, 柴崎浩 (京大名譽教授), 神戸市・神戸国際会議場  
〔連絡先〕(株)ジェイコム コンベンション事業本部  
☎(06)6348-1391/FAX(06)6456-4105  
URL = <http://www.iccn2010kobe.com/>

### 11月

- \* **国際メニエール病学会**  
11月14—17日, 伊藤壽一 (京大教授), 京都市・国立京都国際会館  
〔連絡先〕ACプランニング  
☎(075)611-2008/FAX(075)603-3816  
URL = <http://www.acplan.jp/meniere2010/index.html>
- \* **国際SN学会**  
11月18—20日, 北島政樹 (国際医療福祉大学長), 横浜市・パシフィック横浜  
〔連絡先〕日本コンベンションサービス(株)メディカルカンパニー  
☎(03)3508-1214/FAX(03)3508-1302  
URL = <http://www2.convention.co.jp/isns2010/>
- \* **国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会**  
11月20—21日, 西原達次 (九州歯科大教授), 北九州市・九州歯科大学講堂  
〔連絡先〕国際歯科研究学会日本部会  
☎(075)468-8772/FAX(075)468-8773  
URL = <http://www.soc.nii.ac.jp/jadr/index.html>
- \* **世界乳房腫瘍形成外科シンポジウム**  
11月25—26日, 福岡英祐 (亀田メディカルセンター部長), 東京・ホテル日航東京  
〔連絡先〕(株)ICS コンベンションデザイン  
☎(03)3219-3541/FAX(03)3219-3626  
URL = <http://www.iopbs2010.org/jpn/index.html>

### 12月

- \* **アジア角膜学会**  
12月1—3日, 木下茂 (京府医大教授), 京都市・ウェスティン都ホテル京都  
〔連絡先〕京都府立医科大学眼科学教室  
☎(075)251-5578/FAX(075)251-5663  
URL = <http://www.nichigan.or.jp/member/syukai/2010/1012.jsp#101201>
- \* **アジアミトコンドリア学会・日本ミトコンドリア学会**  
12月16—18日, 古賀靖敏 (久留米大教授), 福岡市・福岡国際会議場  
〔連絡先〕(株)ICS コンベンションデザイン九州支局  
☎(092)751-3244/FAX(092)751-3250  
URL = <http://www.mit2010.org/index.html>

●本調査は、2009年12月10日現在のものです。なお、2010年国内の医学関連学会・研究会の開催一覧は、2861号 (本年1月4日付) に掲載しています。

●各学会・研究会の日程などの最新情報は、「医学書院ホームページ (<http://www.igaku-shoin.co.jp>)」でご確認ください。

◆お問合せは下記まで。

(株)医学書院「週刊医学界新聞」編集室

☎(03)3817-5694/FAX(03)3815-7850 E-mail : [shinbun@igaku-shoin.co.jp](mailto:shinbun@igaku-shoin.co.jp)

# MEDICAL LIBRARY

書評・新刊案内

## 神経診断学を学ぶ人のために

柴崎 浩 ● 著

B5・頁352  
定価8,925円(税5%込) 医学書院  
ISBN978-4-260-00799-3

このたび、日本を代表する臨床神経生理学者で、かつ優れた神経内科医である京都大学名誉教授の柴崎浩氏により、新しい神経診断学の書物が刊行された。国内はもちろん、国際的にも高名な著者による診断学の手引書であり、この機会を借りて心から喜び、お祝いを伝えたい。

日本で最初に神経内科の講座が文部省(当時)により承認されたのは九州大学医学部で、1963年のことであった。翌年には、附属病院に独立の神経内科が発足した。黒岩義五郎氏が教授を、私が助教を務めたとき、柴崎氏は入局した。

この出会いを通じて、氏の性格、態度を知ることができた。柴崎氏は、素直で、真摯な努力家であり、優れた才能を持ちながら謙虚であり、友人を大切に、素晴らしい人格者であることを知り、将来必ずや嘱望される医師になるであろうと期待していた。果たせるかな、米国ミネソタ大学神経内科レジデントを終え、英国留学で神経生理学を深く学び研究業績を挙げ、今や国際的に活躍する学者へと成長した。同門の一人として喜びに堪えない。

特に、京都大学退官後、米国NINDBのFogarty Scholarに選ばれ、2年間自由な研究に従事できるという日本人としては初の栄誉を与えられたことは、いかに、柴崎氏の研究業績が国際的に高く評価されているかを示すものであると言えよう。

さて、この書物は、著者の単独執筆であり、書物全体に一貫性を持って、診断の基礎的記述、神経解剖図、用語に至るまで並々ならぬ工夫がなされている。柴崎氏の臨床家として、また教育者としての親切な指導が感じられ、まさに、第一級の神経診断書と言っても過言ではない。

まだ、画像診断学が今日のように進歩していない時代に臨床神経学を学ん

### 第一級の神経診断学として推薦する



だ私たちの時代は、患者から詳しい病歴をとり、頭部から下肢に及ぶ神経診断手技から、神経学的異常所見をとらえ、それを総合して臨床診断を考えて

いた。それは、神経学的ポジティブ所見とネガティブ所見があることを知った上での診断であった。診断に至る過程こそ臨床神経学の魅力であった。この診断法は時代が変わっても不変である。

一般に多くの人から、神経学は“診断は謎を解くようで面白いが、診断ができて治療がない”と批判されたことは事実である。しかし、批判されても人間の脳の機能は

いまだ十分解明されておらず、神秘性を保っており、挑戦に値する研究分野であることは万人が認めている。さらに神経病の治療は最近、治療薬の開発が進み、リハビリテーションの導入によって進歩していることは事実である。

ところで近年、画像診断やその他の診断技術が進み、神経症状や徴候をおろそかにする傾向が出てきた。また、診察に当たり、呼吸器ならば肺、消化器ならば胃腸といった局所だけを診るようになり、全身を診ようとする医師が増えてきたことは憂うべきことである。この点、神経診断学はベッドサイドで患者の全身を診ながら、神経系統を診ることを基礎としている唯一の診断学であることを強調したい。

本書は、31章からなり、解剖から生理機構を介して理解しやすいように配慮されている。また最近話題となっている病気、徴候、分類などがColumnとして簡潔明瞭に説明されている。このColumnを読んで学ぶことが多い。本書は臨床神経学に興味を持つ医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師を対象としてわかりやすく説明された最良の診断学として推薦したい。値段も手ごろである。

評者 荒木 淑郎  
熊本大名誉教授

## 血液病レジデントマニュアル

神田 善伸 ● 著

B6変・頁336  
定価4,200円(税5%込) 医学書院  
ISBN978-4-260-00837-2

新進気鋭の血液学者神田善伸教授によって書き下ろされた『血液病レジデントマニュアル』は、血液疾患全般にわたる臨床上の問題、対策、治療指針などについて、簡潔ではあるが行き届いた記述がなされた極めて便利な本である。白衣のポケットにも入るくらいの小さな本なのであるが、血液疾患のそれぞれについて、疫学、原因などにも触れた後に、診断のポイント、診断基準、病型分類などを示してから、具体的な治療方法がわかりやすく述べられている。「レジデントマニュアル」という名称以上の豊富な内容がコンパクトな体裁の中にぎっしりと詰まっています。レジデントばかりでなく、血液学を学ばたての若い医師、臨床検査技師、看護師などにも極めて便利で有益な一冊である。

### 血液疾患の治療をわかりやすく説明

評者 浦部 晶夫

NTT東日本関東病院予防医学センター長

血液疾患の治療は難しいと考える人が多いようであるが、本書では、鑑別診断、検査の意義、治療法選択の基準、薬剤の具体的な投与方法などが

図表を上手に用いてわかりやすく説明されている。血液疾患の重症度分類や予後分類なども図表で明快に示されている。化学療法のプロトコルは、病棟の受け持ち医に役立つように、注意事項が述べられていて懇切丁寧である。

さらに本書は、レジデントや若手の医師に便利ならばだけでなく、ベテランの血液内科医にとっても、新しい診断基準や病型分類、予後分類などを確認したり、度忘れした薬の名前を思い出ししたりする際に有用であり、血液診療を行う上で必携の書になると信じて推薦する次第である。

## リハビリポケットブック 臨床評価ガイド

Ellen Z. Hillegass ● 著

清水ミシェル・アイズマン ● 監訳

三五変・頁280  
定価2,940円(税5%込) 医学書院  
ISBN978-4-260-00765-8

「手の中にすっぽりと収まる小さなサイズの本にもかかわらず、ずっしりとした存在感が伝わってくる」というのが、初めて本書を見開いたときの第一印象である。

長年、米国と日本の両国で臨床活動と理学療法士・作業療法士の教育にかかわってこられた清水ミシェル・アイズマン教授監訳による『リハビリポケットブック——臨床評価ガイド』が出版された。原書を手にしたときの感想を監訳者は、「この本はリハビリテーション関連領域の医療従事者に役立つ」と直感したと序文に記しているように、本書には、リハビリテーション対象患者の評価から治療を実施する際に重要となる情報が凝縮されており、まさに臨床現場で活用できるポケットブックと言える。

### リハビリ医療情報が凝縮されたコンパクト本

本書の緑色の帯に記された「あなたは患者を正しく評価できていますか?」のフレーズはインパクトがあり、われわれの日々の臨床業務の原点が問われているようで、監訳者の臨床マインドと教育マインドを読みとることができる。近年の理学療法士・作業療法士の養成校の増加に伴って、臨床実習の質的なあり方が議論されている。特に限られた実習時間内でカルテや、他部門からの患者情報収集および身体機能に関する評価から始まる一連の理学・作業療法過程を実習生がいかに的確に実施するかが大きな課題となっているだけに、本書の出版は実にタイムリーであると言える。

本書は大きく、病歴聴取やリスク要因などの基本的な評価、呼吸循環機能に関連する心肺の評価、運動器疾患に関連する筋骨格の評価、平衡反応や神経反射などの中枢神経系に関連する神経筋の評価、熱傷や褥瘡などに関連する皮膚の評価、血液や生化学などに関連する検査、リハビリテーション医療に多用される薬効と副作用などの薬剤情報、参考資料の8章構成から成っており、各章とも臨床現場で必要不可欠な評価内容がコンパクトにまとめられている。本書は、一見して理解できるように図表とイラストを豊富に配置し、箇条書きの記述形式に統一されており、読者本位の工夫がなされている。特に、参考資料の欄にあるリハビリテーションの臨床場面で用いられる各種のアウトカムツール一覧とSOAP記載法は臨床効果を確認する上で重要であり、より実践的な書となっている。

評者 鶴見 隆正

神奈川県立保健福祉大学教授・理学療法学

確に実施するかが大きな課題となっているだけに、本書の出版は実にタイムリーであると言える。

本書は大きく、病歴聴取やリスク要因などの基本的な評価、呼吸循環機能に関連する心肺の評価、運動器疾患に関連する筋骨格の評価、平衡反応や神経反射などの中枢神経系に関連する神経筋の評価、熱傷や褥瘡などに関連する皮膚の評価、血液や生化学などに関連する検査、リハビリテーション医療に多用される薬効と副作用などの薬剤情報、参考資料の8章構成から成っており、各章とも臨床現場で必要不可欠な評価内容がコンパクトにまとめられている。本書は、一見して理解できるように図表とイラストを豊富に配置し、箇条書きの記述形式に統一されており、読者本位の工夫がなされている。特に、参考資料の欄にあるリハビリテーションの臨床場面で用いられる各種のアウトカムツール一覧とSOAP記載法は臨床効果を確認する上で重要であり、より実践的な書となっている。

本書は、理学療法士・作業療法士をめざす学生はもとより新人理学療法士・作業療法士が患者評価、治療指導の際にポイントとなる情報をシステムチックにわかりやすく掲載されているだけに、必携の書としてお薦めしたい。

“Bad News”をどう伝えるか。がん種ごとの具体的なケースに沿って学ぶ。

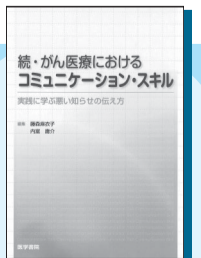
## 続・がん医療におけるコミュニケーション・スキル

実践に学ぶ悪い知らせの伝え方

がんの診断、再発、積極的抗がん治療中止をはじめとする悪い知らせ—Bad Newsをどのように伝えるかという困難なコミュニケーションに日々直面している医療者に向けて、いかに困難な場面においても、患者との意志疎通をはかるために必須のコミュニケーションの基本から効果的な技法まで、がん種ごとにケースをあげて実践的にまとめた書。がん医療に今強く求められているコミュニケーションの向上をめざして。

編集 藤森麻衣子

国立がんセンター東病院臨床開発センター  
精神腫瘍学開発部  
内富庸介  
国立がんセンター東病院臨床開発センター  
精神腫瘍学開発部部長



A5 頁240 2009年 定価2,940円(本体2,800円+税5%) [ISBN978-4-260-00870-9]

医学書院

### ●書籍のご注文・お問い合わせ

本紙紹介の書籍に関するお問い合わせは、医学書院販売部まで

☎(03)3817-5657

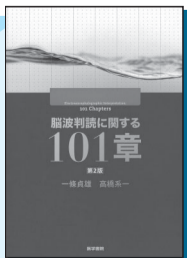
なお、ご注文は最寄りの医書取扱店(医学書院特約店)にて承っております。

最新の定義に基づいた分類と解釈で、脳波判読のコツを伝授!

## 脳波判読に関する101章 第2版

脳波判読に欠かせないキーワードを101選び、見開き2ページ読み切りの形でまとめた。脳波判読のコツとその波形がもつ意味について、どこからでも読めるテキストとなっている。第2版では、国際臨床神経生理学会の定義に基づいて波形の解釈を見直し、てんかんの国際分類などを最新のものに更新させた。また、新たに巻末付録として用語集をつけた。

一條貞雄  
仙台富沢病院  
高橋系一  
北習志野花輪病院



B5 頁248 2009年 定価5,250円(本体5,000円+税5%) [ISBN978-4-260-00981-2]

医学書院

# 口腔咽喉頭の臨床 第2版

日本口腔・咽喉科学会 ● 編

A4・頁224  
定価15,750円(税5%込) 医学書院  
ISBN978-4-260-00757-3

このたび、医学書院から第2版が刊行された『口腔咽喉頭の臨床』を手にして直感的に思ったことは、B5判からA4判に紙面が拡大するのに合わせて、内容が「小結クラス」から「大関クラス」へとレベルアップしたということであった。

現時点で入手できる  
最高水準のテキスト

初版から10年を経過して、口腔咽喉頭科学を取り巻く社会的状況が大きく変化したことにも細心の注意を払いつつ、「いびきと睡眠時無呼吸症候群」、「摂食嚥下障害」、「構音障害」、「腫瘍」のテーマについて新しい章立てを行って十分に解説したことは、誠に的を射た編集方針であった。

本書は初版当時から、いわゆる教科書の殻を破り、カラー写真とイラストを随所に盛り込んで読者の理解を助ける方針をとっていたが、この方針が見事に踏襲されるとともに、写真印刷技術の進歩により、極めて精緻なカラー写真が多数掲載されている。特に口腔咽喉頭粘膜の病態は、光が十分届かない狭くて深い領域のものであり、撮影技術にも高度なテクニックが求められるが、それらの困難を見事に克服している点が第2版の特徴の1つであろう。

評者 高坂 知節  
東北文化学園大学長・耳鼻咽喉科学

さらに、分担執筆の教科書にもかかわらず、執筆内容に統一感が維持されている点が第2の特徴として挙げられる。全編を通じて、疾患の定義、症状と所見、診断、鑑別診断、治療、予後と一貫した順序立てをもって記載されている。

また、分担執筆者の範囲は、医育機関の教授や准教授・講師に限定せず、一般病院やプライベートオフィスの第一線で臨床に当たっている専門医が14名も参加しているのが第3の特徴であろう。口腔咽喉頭疾患のかなりのもが大学病院以外の外来で診療されている現状を把握した見事な人選と考える。

以上述べてきたように、第2版は初版の良き伝統を引き継ぐとともに、時代の変遷に合わせて追加すべきところはしっかりと補われているために、まれにみる完成度を備えた教科書として仕上がっている。もちろん、向後10年を見据えてさらなる進化が期待できるが、現時点では入手できる最高水準のテキストといえよう。かつて初版の執筆を担当した一人として同慶の至りである。

# 胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際

大木 隆生 ● 編

B5・頁168  
定価12,600円(税5%込) 医学書院  
ISBN978-4-260-00940-9

評者 石丸 新  
戸田中央総合病院副院長

本書の編者である大木隆生氏は、米国アルバートアインシュタイン医科大学血管外科学教授にして、東京慈恵会医科大学外科学講座教授・統括責任者の要職にある気鋭の外科医として知られている。米国での豊富な臨床経験を携え2006年に帰国。以来わが国の血管外科医の育成と血管内治療を中心とした先端医療の実践に日々奮闘する中で、やがてそれらの成果が編纂されることは必然であったといえよう。今回、胸部大動脈用ステントグラフトの国内導入時期に合わせ、満を持して本書を上梓した先見性と実行力には氏の面目躍如たるものがある。

欧米では、1990年代後半に腹部大動脈瘤を対象として企業製ステントグラフトの臨床応用が開始されたが、わが国では専ら胸部大動脈瘤あるいは動脈解離について、手作りのステントグラフトによる治療が行われ、今日まで多数の治療経験がある。しかし、個々に手作りされたデバイスが使用されている限り、その治療手法に普遍性を見いだすことは困難であった。

大木隆生編『胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際』は、わが国に初めて導入された企業製ステントグラフトに関する本格的な技術解説書である。そのコンテンツを見ると、胸部大

# 第17回総合リハビリテーション賞決定

第17回総合リハビリテーション賞の授賞式が2009年9月30日、医学書院にて行われた。今回は、道木恭子氏(国立障害者リハビリテーションセンター病院)、古谷健一氏(防衛医科大学校産婦人科)他の「脊髄障害女性の妊娠・出産に関する調査研究」(『総合リハビリテーション』36巻7号、2008年)が受賞した。



●道木恭子氏(左)と古谷健一氏(右)

本賞は、『総合リハビリテーション』誌編集顧問の上田敏氏が東大を退官する折(1993年に金原一郎記念医学医療振興財団に寄付された基金を原資として発足した。今回は、2008年発行の『総合リハビリテーション』第36巻に掲載された投稿論文53篇を選考対象とし、最も優れた論文に贈られた。

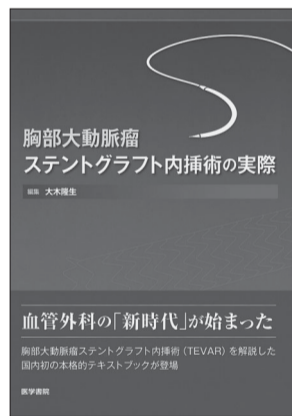
授賞論文は、脊髄損傷・二分脊椎による脊髄障害がある女性56人を対象に、妊娠・出産の現状やさまざまな問題について、10年間にわたって調査研究したものをまとめたもの。道木氏はこの論文で、調査に協力した56人のうちの90%以上で妊娠中に合併症がみられること、妊娠後期にADLや家事動作に関して要介助となる人の割合が急増すること、出産方法は帝王切開が多いことなど、脊髄障害者の妊娠・出産の実態を明らかにした。また、脊髄障害者は妊娠・出産・育児にあたって相談できる場所がないこと、医療者の障害者妊婦への理解不足や誤解・拒否がみられること、情報提供や保健指導の不十分さなど、医療者側の課題も示されている。これらの調査結果をもとに、授賞論文は「産婦人科、リハビリテーション科をはじめとする医療関係者が現状を認識し、問題解決へ向けて連携することや、脊髄障害者の妊娠・出産マニュアルの作成と周知が必要」と結論づけている。

編集委員の永田雅章氏(市川市リハビリテーション病院)は、「脊髄障害のある女性の妊娠・出産についての理解は、社会的にも、また医療関係者の間でも十分ではない。道木氏らの調査報告は、この問題を綿密に研究されたもので、本邦ではこれまで見当たらず、たいへん貴重な内容と示唆に富んだ論文である」と選考理由を述べた。

動脈瘤ステントグラフトの実施基準に始まり、当該治療法の過去と現況、TAGの米国臨床試験結果、治療の実際(基礎編)、対麻痺予防、トラブルシューティング、治療の実際(応用編)で構成され、これに経験例の成績および症例呈示が加えられていて、どこまでも実践の書であろうとする執筆者の趣意が読み取れる。実際に本書の扉を開くと、平易かつ必要にして十分な表現に徹した説明文、これを補填すべく随所に配置されたイラスト、そして血管内治療の命とも言えるX線画像の鮮明さにその真骨頂を見ることができ

る。経験のなかには成功例もあれば、必ずしも期待どおりの結果が得られなかった症例もあり、いくつかの裏技やデバイスの“癖”も分かりました。よい経験も悪い経験も本書に凝縮し、初歩的な使用法からトラブルシューティングに至るまでをカバーし、ビギナーにも、また相当数経験した医師にも役に立つことを期待している」という主旨のことを述べている。

## ステントグラフトに関する本格的な技術解説書



本書は、日常の診療や学会・講演会活動に多忙を極めるなか、大木教授率いる東京慈恵会医科大学血管外科学教室の総力によって結実をみた血管内治療医必携の書であり、その完成度は見事と言うほかない。

編者は序文において、「われわれの

# ハリソン内科学 第3版

日本語版監修 福井次矢 聖路加国際病院院長/京都大学名誉教授 黒川 清 政策研究大学院大学教授/東京大学名誉教授

2009年  
12月22日  
発売

Harrison's  
PRINCIPLES OF  
INTERNAL  
MEDICINE  
17TH  
EDITION

●全2巻 A4変 3,326頁 4色刷 ●函入 ソフトカバー ●定価31,290円(本体29,800円+税5%) ●ISBN978-4-89592-627-0

## 「ハリソンはミッションになった…」

- 世界最高、最強の内科学書、最新版の邦訳。
- 現代の内科学の全容を、18Part、431章(eチャプター39章を含む)の中に詳細かつ的確に網羅。
- 本文、図版・写真とも大幅にボリュームアップ。対応すべく増頁、加えてDVDに納めて添付した。
- DVDには最新トピックを解説した新しいPart、各章の内容を補完するeチャプターや図版・写真、動画などを収録。
- 近年注目の再生医学のPartを追加、あわせて各章における基礎医学の記述を補強。
- 学生時代から現役引退まで座右書として傍らに置き続けることに値する唯一無二の内科学書であり、幅広い読者層の中でとくに医学生に配慮し、第3版でも定価は据え置き、廉価を維持。



### VOLUME 1

- Part 1 臨床医学総論
- Part 2 主要症候
- Part 3 遺伝学と疾患
- Part 4 再生医療
- Part 5 栄養

### VOLUME 2

- Part 6 腫瘍学と血液学
- Part 7 感染症
- Part 8 NBCテロと臨床医学
- Part 9 循環器疾患

### 3つの R を継続

- R-1 Rapid publication**  
原著最新版(2008年2月発行・第17版)の邦訳です
- R-2 Readable and Reliable translation**  
読みやすく正確な訳
- R-3 Reasonable price**  
定価据え置き、廉価を維持しました

### 目次

読者プレゼント

「ハリソン物語：かくして「ハリソン」はグローバル・スタンダードになった」を、ご希望の方に進呈いたします。この冊子は、原著のセールスが1950年の初版以来100万部に到達したのを記念してつくられたものの翻訳です。「ハリソン」の誕生からその後の各版がどのように改訂され進化していったかが、歴代編者の回想として興味深くまとめられています。小社販売部までお申し込みください。

ハリソン物語

Harrison's  
PRINCIPLES OF  
INTERNAL  
MEDICINE  
17th ed.

- Part 10 呼吸器疾患
- Part 11 クリティカルケア
- Part 12 腎・泌尿器疾患
- Part 13 消化器系疾患
- Part 14 免疫系、結合組織、関節の疾患
- Part 15 内分泌・代謝疾患
- Part 16 神経疾患
- Part 17 中毒、薬物過剰投与、および有害生物による被害
- Part 18 国際編集顧問によるトピックス付録：臨床重要な検査値

信頼と実績ある最新・最高の治療年鑑

# 今日の治療指針

## TODAY'S THERAPY 2010

好評発売中!  
臨床医が日常遭遇する疾患とその治療法を、  
第一線の専門医が執筆

### 私はこう治療している



山口 徹  
虎の門病院院長

北原光夫  
慶應義塾大学病院病院経営業務担当執行役員

福井次夫  
聖路加国際病院院長

●医学書院発行のベストセラー「治療薬マニュアル2010」との連携  
「治療薬マニュアル2010」別冊付録「重要薬手帳」との併用が便利  
(「重要薬手帳」に掲載された薬剤について本書の処方例中に対応ページを明記)

●各領域の「最近の動向」解説欄がより詳しく  
(「図解」「キーワード」コラムも新設)

- 1098疾患項目、1076専門医の治療法がこの1冊に
- 本文各項目はすべて新執筆者により全面新訂
- 増加する新薬に対応、**R 処方例**では薬剤を商品名で記載
- 付録「肝・腎障害時の薬物療法の注意点」を新規掲載
- カラー図譜(正常CT・MRI解剖と基本的病変像、肺・肝の区域図、胸部・腹部リンパ節の部位、輸入感染症の世界分布)、臨床検査データ一覧、TDM、急性中毒、抗菌薬、漢方製剤、皮膚外用薬、肝・腎障害時の薬物療法の注意点、高齢者の薬物療法、妊婦・授乳婦への薬物療法とリスク、薬物の副作用と相互作用、新薬・医薬品等安全性情報、介護保険、診療ガイドラインを収録
- 研修医、看護職、薬剤師にも役立つ情報が満載

●デスク判(B5) 頁1952 2010年 定価19,950円  
(本体19,000円+税5%) [ISBN978-4-260-00900-3]

●ポケット判(B6) 頁1952 2010年 定価15,750円  
(本体15,000円+税5%) [ISBN978-4-260-00901-0]

圧倒的な情報量が支持されています! 治療薬情報を網羅した年鑑最新版

# 治療薬マニュアル

## MANUAL OF THERAPEUTIC AGENTS

# 2010

### 別冊付録 「重要薬手帳」



1月中旬発行予定!



紙面刷新

監修

高久史磨 自治医科大学学長  
矢崎義雄 国立病院機構理事長

編集

北原光夫 慶應義塾大学病院 病院経営業務担当執行役員  
上野文昭 大船中央病院特別顧問  
越前宏俊 明治薬科大学教授

●B6 頁2600 2010年  
定価5,250円(本体5,000円+税5%)  
[ISBN978-4-260-00930-0]

●2010年版の特徴

- 膨大な薬の添付文書情報を分かりやすく整理
- 各領域の専門医による実践的な臨床解説、全医療従事者必携の薬剤データブック
- 本書発行直前までの新薬を含むほとんどすべての医療用医薬品を収録
- 「抗癌剤・抗菌薬・抗ウイルス薬 欧文略語」を新規掲載
- 「治療の基本戦略&最新の動向」をさらに充実、治療薬の「選び方・使い方」を各章に掲載
- 「適用外使用」の拡充、掲載疾患数を一挙倍増
- 好評の別冊付録「重要薬手帳」には新たに「処方例」を掲載、121成分の重要薬情報に89疾患の重要処方が加わり、内容がさらに充実
- 毎年全面改訂

「今日の治療指針2010年版」×  
「治療薬マニュアル2010」  
合同プレゼント企画  
特製USBメモリを抽選で300名様に!

「今日の治療指針2010年版」と「治療薬マニュアル2010」の両方をお買い求めいただいた方に、抽選で特製USBメモリを差し上げます(300名様)。ご応募の際は「治療薬マニュアル2010」のジャケット折り返しの部分にある応募券を「今日の治療指針2010年版」に同封の書籍の「ご注文書ハガキ」に貼付してお送りください(2010年9月30日消印分まで有効)。



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [販売部] TEL: 03-3817-5657 FAX: 03-3815-7804  
E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替: 00170-9-96693